

岩日タイムズ

発行者
岩瀬日本大学
高等学校
ソーシャルメディア部
緒方 桃子

スポーツの力感じて

コロナ禍で初の行事にクラス団結 令和2年度 球技祭

10月29日、爽やかな秋晴れのもと球技祭が開催された。コロナ禍の影響で、今年度初めての行事となった今回の球技祭。比較的接触が少ない競技として選ばれたのは、ソフトテニス、ソフトボール、卓球、



ネット向こうで2年生と観戦者が身構える

大会前、体育祭実行委員長の添野雅輝さんは「今年は文化祭が中止になり、学校行事は球技祭のみとなった。その分、球技祭を楽しめるよ

うにしたい」と力強く意気込みを語った。3年生6クラス中5クラスが「ライバルはいない」と答えるなど、球技祭に懸ける思いは大きかった。始業前や放課後の時間を使って自主的に練習しているクラスも多々見られた。また、体育の授業でも練習試合がおこなわれており、学校全体が大会に向けて盛り上がりつつあった。

球技祭当日、ひときわ大きな盛り上がりを見せていたのはバレーボールの決勝戦、3年2組対2年4組の試合だ。両クラスは生徒、さらには試合を終えた他競技の生徒が体育館を訪れ、ひとつのボールに視線が注がれた。どの競技でも、学年の差を感じさせない熱い戦いが繰り広げられていた。



クラスTシャツに彩られた校庭

例年は文化祭で3年生のみが着用するクラスTシャツ。今回は全学年がクラスごとに異なるデザインのTシャツを作成し、団結力を高めた。Tシャツの後ろにプリントされた数字や文章は「背ネーム」と呼ばれる。生徒のみならず、先生方も個性的な背ネームのTシャツを身に付けており、その違いを楽しむのも見どころの一つとなった。



事前インタビューに答える添野さん(左)

また、体育の授業でも練習試合がおこなわれており、学校全体が大会に向けて盛り上がりつつあった。球技祭当日、ひときわ大きな盛り上がりを見せていたのはバレーボールの決勝戦、3年2組対2年4組の試合だ。両クラスは生徒、さらには試合を終えた他競技の生徒が体育館を訪れ、ひとつのボールに視線が注がれた。どの競技でも、学年の差を感じさせない熱い戦いが繰り広げられていた。

編集後記

大会結果

各種目の結果は次の通り。(競技名 優勝・準優勝の順)
ソフトテニス
3年5組・1年6組
ソフトボール
3年2組・3年3組
卓球
2年2組・3年3組
ドッジボール
1年2組・3年1組
バドミントン
1年6組・2年1組
バレーボール
3年2組・2年4組

学校で生活する上で、新型コロナウイルスの影響を受けない場面はない、といっても過言ではない。工夫を凝らせば、今回のような大会も開催できる。何ができないのかではなく、今できることは何かを見つけていくことが大切だ。生徒たちの歓声、拍手、雄叫びを聞いて、改めてスポーツの力を感じた人も多いのではないだろうか。